



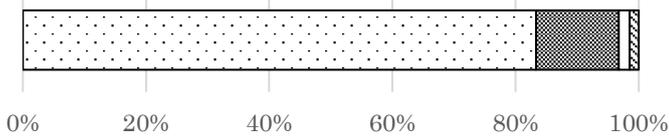
本校は、令和4年度、文部科学省から「人権教育に関する研究校」としての指定を受けています。今年度は、学校課題を「豊かな人間性や自尊感情を育成する人権教育～互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成～」をテーマに設定し、児童、教職員、そして保護者の皆様とともに、人権に関する意識を高め、豊かな心の育成、より過ごしやすい学校・家庭・地域づくりにつなげていくために様々な取り組みをしています。

その一環として人権教育に関する本校の活動を伝えるための人権だよりを発行します。今年度最終号となる第4号では、12月に児童を対象に行った2回目の人権アンケートの結果とそれに関する考察、校内の人権に関する掲示物について紹介します。

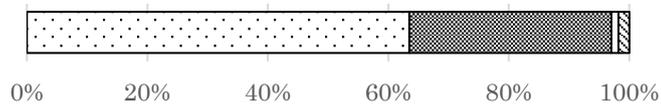
人権アンケート結果

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

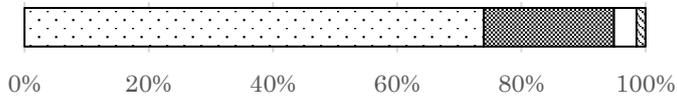
1 いじめは、どんな理由があってもいけない。



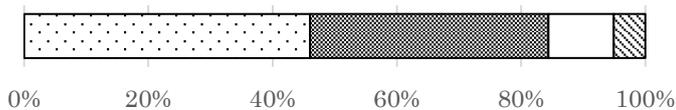
2 日本や世界には様々な人権問題があることを知っている。(中・高学年)



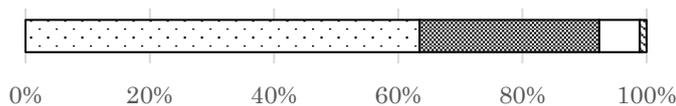
4 いろいろな考えをもつ人たちと、ともに暮らしていることを知っている。



6 自分にはよいところがある。



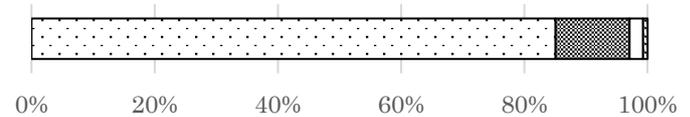
8 正しいことを行い、よくないことを正そうとする気持ちがある。



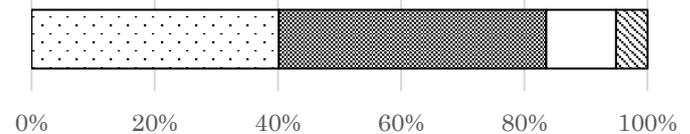
3 どんな人権問題を知っているか(記述式)

- ・黒人・白人差別 ・国籍
- ・人それぞれ好きな物はちがう ・いじめ
- ・人種差別 ・ウクライナ戦争
- ・男女差別 ・色を否定
- ・差別問題 ・肌の色
- ・いじめ
- ・パワハラ
- ・ネットいじめ

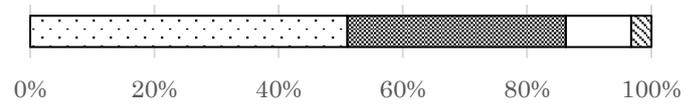
5 友達と考えや気持ちを伝え合うことは、大切だ。

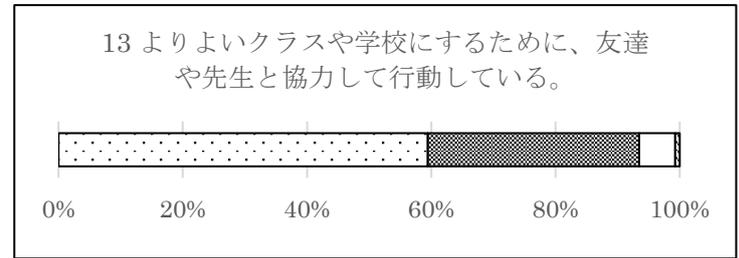
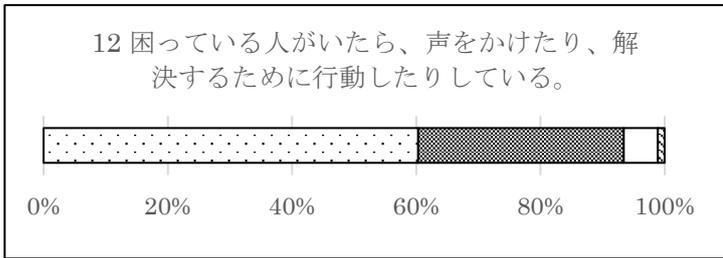
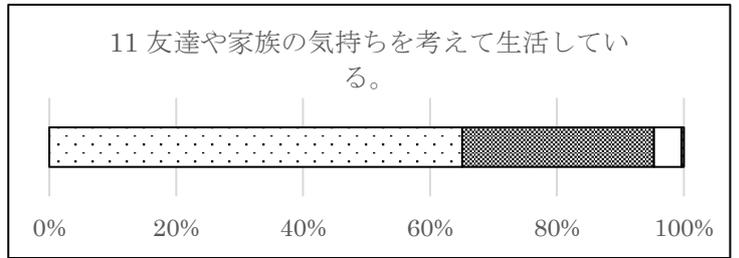
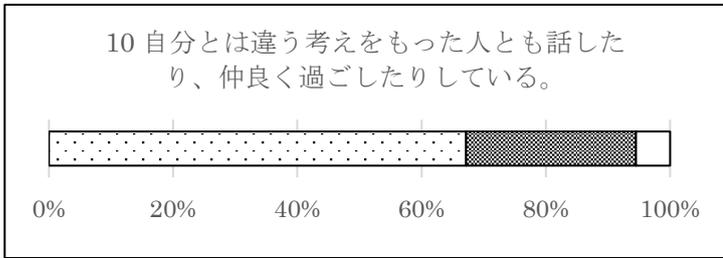


7 友達や家族、先生から認められている。



9 クラスや学校をよくするために、何をしたらよいか考えている。





【アンケート結果の考察】

2回目のアンケート結果から全体を通して言えることは、肯定的な回答の割合がすべての項目で1回目のアンケート結果と同等かそれを上回っているということです。ほとんどの項目で肯定的な回答の割合が90%を上回っていて、1年間の人権教育の成果が表れた結果となりました。特に設問2の「日本や世界には様々な人権問題があることを知っている。(中・高学年)」の項目では、「そう思う」という回答の割合が34%から62%と大幅に高くなり、肯定的な回答全体でも、87%から97%になって、100%に近くなりました。この結果から、社会の中には多くの人権問題が存在するということを自覚し、それらの問題に目を向けながら解決の方法を考えていく必要があるということ意識づけられたのではないかと思います。

その一方で、1回目と2回目のアンケート結果にあまり変化がなかった項目は、設問6の「自分にはよいところがある。」と設問7の「友達や家族、先生から認められている。」です。設問6については、肯定的な回答の割合の推移が81%から84%に、設問7については、肯定的な回答の割合の推移が83%から84%とほぼ変化していません。全体を通して見てもこの2つの項目は、肯定的な回答の割合が90%を下回っています。まだまだ自分に自信がなかったり、自分の良さを見出せずにいたりするなど、自己肯定感が低い児童が一定数いる状況です。

人権に関する掲示物

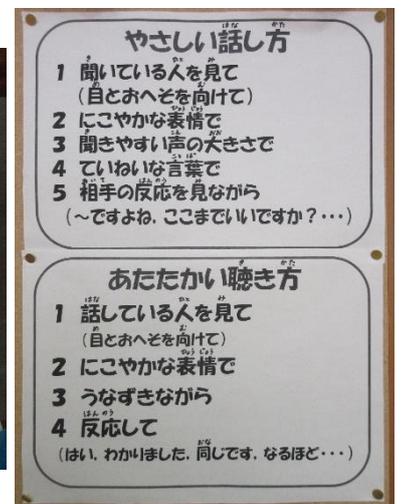
校内には人権コーナーをはじめとした掲示物が掲載され、人権感覚を磨くための環境が整備されています。



人権コーナー



人権宣言と人権に関する標語



やさしい話し方
あたたかい聴き方